

## 過去の差別的発言引用問題に

昨年9月にあった福井県高校演劇祭で、福井農林高の劇だけが地元ケーブルテレビで放送されなかった。劇は原発が題材で、せりふに差別的表現が入っていた。部員の一人が取材に際し、「劇は見られて初めて劇になる。見てもええ悔しい」と胸中を明かした。

### 「見てもええ悔しい」と

昨年の演劇祭は新型コロナウイルス対策で無観客開催になった。福井ケーブルテレビが取材し、例年ならば12月に全校分を放送する。

農林高の劇の題名は「明日のハナコ」。女子生徒2人の掛け合いで進み、多くの原発がある福井の歴史と2人の生き方を描く。

「劇が放映できないかもじゃない」。取材に際した部員によると、演劇祭の翌日、顧問の教員と脚本を書いた前顧問の玉村徹さん(60)が、学校で部員らにこう伝えた。部員は「そんなことになるとは全然思っていなかった。何でなんだと

思った」と振り返る。涙を流す部員もいたという。無観客で、保護者も見られなかった劇。部員は一人に見られてこそ演劇だと教わってきた。放映してくれないと劇にならない。多くの人に見てもらえない悔しさがある」と話す。

劇では、主人公の女子生徒が福井の過去の出来事を振り返る中で、1983年に当時の同県教育市長が講演会で話した言葉を紹介する。現代では身体障害者への差別にあたる言葉を引用しながら、経済的な面で原発誘致を主張する内容だ。演劇祭を主催する県高校文化連盟(高文連)演劇部会が取材に、この差別的表現で「そのまま放送した場合は、演じた生徒や関係した職員が批判や中傷を受ける可能性がある」とテレビ側に伝えた、と説明する。同



## 演じた福井の高校生ら

テレビの担当者や協議する中で、「放送は厳しい」との認識で一致したという。農林高演劇部員は8人。演劇祭の脚本は昨年7月、部員たちで多数決で選んだ。部員は「歴史のテーマにギャグがあつて一番面白かった。原発の『げ』の字も知らなかったけど、面白くて勉強にもなった」。夏休みもほぼ毎日稽古した。せりふの一部が差別的表現とは知らなかったという。放送見送りが決まると、玉村さんらは撤回を求める

## 愛媛・大阪で上演へ

放送中止が昨年11月に報じられ、波紋が広がった。福井県高文連演劇部会は同12月、各校の顧問と部員を対象に表現の自由と差別に関する研修会を開催。それまでは除いていた農林高の劇を、顧問や演劇部員から見られるサイト上では視聴できるように変更した。

玉村さんらが11月に署名活動を始める際に、ネット上に台本を公開していた。演劇部会長の島田芳秀・丸岡高校長は、視聴できるようにしたことについて「既に脚本が公開され、非公開にしている理由がなくなつた」と説明する。

品を玉村さんらが演じて観客に見せる学習会を開いた。会で講師を務めた小出寛井護士は「(元敦賀市長の発言は)初めて明らかにしたものでなく、劇は批判的に引用している。作品自体を放送させないのはおかしい」と述べた。原発の専門家を招いた同様の学習会も12月に開いた。1月には愛媛県西条市と大阪市で「明日のハナコ」を上演する予定。玉村さんは「表現の自由を考えるきっかけになれば」と話す。(柳川迅)

「明日のハナコ」などが収録された福井県高校演劇祭の脚本集